

初めて解明！！

受け入れ機関と受験者の意識の落差

社団法人外国人看護師・介護福祉士支援協議会は、2012年10月15日～11月12日までに「第四回EPA受け入れ施設及び看護師・介護福祉士候補者調査」を行った。

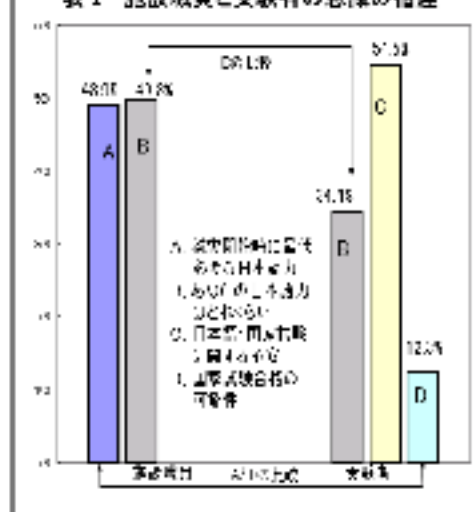
その結果発表を受け、弊社が独自にデータ解析を行った内容をここに改めて発表する。

調査を解析した結果、受け入れ施設と受験者の意識には「国家試験に対する認識度」に、大きな落差があることが判明した。以下、解析に関して数値の比較をしながら、具体的に述べる。

1、「施設職員と受験者の意識の相違」

表Ⅰの棒グラフは、施設職員の受験者の意識の落差を見るための表で、棒グラフの数値は集約した数値を表している。その集約数値の詳細については、表Ⅱ～Ⅴまでで細かく表示しているので、それを参照願いたい。

表Ⅰ 施設職員と受験者の意識の相違



2、日本語力に対する意識の落差

比較すべき点は、職員と受験者の日本語力に対する意識の差を表した表Ⅰの(B)で、この差は15.4%の大きな落差があり、職員が受験者の日本語力に対して、非常に主観的で、期待をこめた楽観的な評価をしていることが判明した。

これは、表ⅢBの(2)項目に明確に表れている。

即ち、すでに多くの職員が経験している通り、受験者が日本人に対する対応を、「ワンワードコミュニケーション」で行っているのを「日本語力」と見なして評価している。

これは【日本人感覚の評価】であり、決して「日本語力」とは言えない。その結果、受験者の自覚と職員の評価は、16.5%をも落差が表れていることが判明した。

さらに、表ⅡAは、受け入れ施設の受験者に期待する日本語力を示すもので、約50%が「業務に差し支えない日本語力」を求めていることが明白となり、施設が期待する日本語力と、受験者が持っている自覚との間に、あまりにも大きな隔たりがあることが判明した。

3、受験者の日本語力に対する自己判断

受験者の自己判断による日本語力は、棒グラフCとの関連でもはっきり表れている。

即ち、日本語に対する不安と国家試験に対する不安を合わせると54.5%にも及び、過半数を

超えていることで、日本人が評価している数値がいかに主観的なものであるかを表している。

また、表ⅢBの(4・5・6)項目では、受験者の日本語力に対する質問であったが、その合計数値は65.6%にも及び、日本語に対する自信の無さを多くの受験者が感じていることが明白となった。

表Ⅲ B (現在の日本語力)	施設	受験者
1) 国家試験受験に十分な日本語能力がある	12.5%	8.5%
2) 業務に差し支えない日本語能力がある	29.3%	12.8%
3) 記録作成に必要な読み書きができる	8.0%	13.1%
4) 会話は問題ないが、読み書きには不安	38.9%	34.8%
5) 会話は不十分であるが、意思疎通は可能	10.3%	19.5%
6) 日本語によるコミュニケーションが困難	1.0%	11.3%

4、受け入れ施設が求める日本語能力（就労時）

表Ⅱ A（就労時に求める最低限必要な日本語力）	施設
1) 国家試験受験に十分な日本語能力がある	8.4%
2) 業務に差し支えない日本語能力がある	40.5%
3) 会話は問題ないが、読み書きには不安がある	33.6%
4) 会話は不十分であるが、意思疎通は可能である	10.7%
5) 日本語によるコミュニケーションはさほど問題ない	3.1%

施設側は最低限、表Ⅱの(2)項目以上の能力を有して入職してほしい願望が約50%に及んだ。しかしながら、施設の期待は裏切られて現時点においても、受験者の意識は表ⅢB項目の(3・5・6)で明らかなように、65.6%の受験者が日本語力に対する不安を表していることが、判明した。なお、受験者の不安は、表ⅣCの設問「不安なことはありますか」に対する反応として、(3・4)の項目合計は54.5%にも上り、他の不安理由と比較すると、約半数以上が日本語能力に関するものであったことが判明した。

表Ⅳ C（受験者の不安）	受験者
1) 健康上の不安	13.5%
2) 家族に関する不安	15.9%
3) 日本語に関する不安	20.0%
4) 国家試験に関する不安	34.5%
5) 日本の生活になじめない	3.5%
6) 職場の環境になじめない	2.8%
7) 収入や待遇が期待と違っている	4.2%
8) 仕事の内容が期待と違っている	2.6%
9) その他	2.1%

5、国家試験合格の可能性について

「3、受験者の日本語力に対する自己判断」と「4、受け入れ施設が求める日本語能力」で解析した通りの結果が、表Ⅴ「国家試験合格の可能性」に顕著に表れている。受験者の現時点での自覚判断では、(1・2)の項目合計数値は12.3%に過ぎず、自ら不合格であると自覚している受験者は、27.7%（4・5）にも及んでいないことは、約3年間の在日生活と来日直後集中教育と、入職後の教育時間数(表Ⅵ参照)を

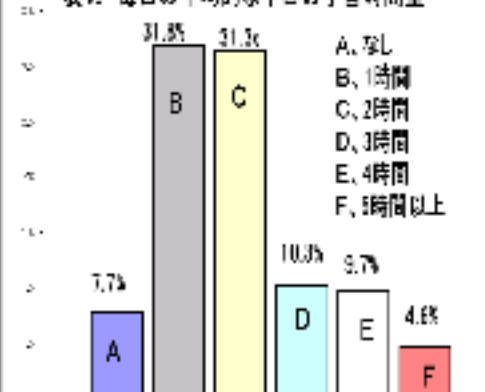
表Ⅴ D（国家試験合格の可能性）	受験者
1) 合格確実	3.6%
2) 合格の可能性が高い	8.7%
3) どちらともいえない	57.9%
4) 合格の可能性低い	25.1%
5) 合格の見込みがない	2.6%

考えるとあまりにも教育効果の無さが浮き彫りとなった。
※ 但し、表ⅤDの自己判断基準はその多くが事業団の行っている模擬試験結果で判断しているために、必ずしも正確性が高いとは言えない。なぜならば、施設関係者からは、「事業団の試験内容と国家試験問題の相違が大きい」という旨の声が弊社に多数寄せられているからだ。

6、総括

今回の調査を解析した結果、【多大な国費と施設負担金、並びに、膨大な勉強時間とそれを指導する職員の労力】を3年間で集約すると、計り知れない日本側の負担があることが判明した。しかしながら、その負担に見合うだけの結果を得られることなく、まるで「ざる水を注ぐ状態」が介護分野において存在していることを、改めて認識せざるを得ないこととなった。このことは、真剣に【外国人に対する日本語教育システム】を早急に確立することが必要であることを示唆している。

表Ⅶ 毎日の平均的な平日の学習時間量



外国人受け入れに対する施設の主張

試験時間延長と、振り仮名振りは全く意味が無い！！

- 厚労省は今回の試験から、時間延長や漢字に対して振り仮名を振る方針を決めた。しかし、受験生の意見を聞いたところ、「振り仮名は読めても、言葉の意味が理解できないので意味が無い」と言った。そして、時間延長についても「模擬試験の会場では延長された分は、ほとんどの受験生が会場で寝ていた」ことなどを、虚しい表情で話していた。
- この状況を考えると、厚労省の方針は受験生の受験能力を無視した方針であり、何ら受験生に対する改善策とは言えず、無意味な方法ということがはっきりしている。
- 受験生自身の試験問題に対する読解能力が養われない限り、いくら振り仮名を振ろうが、時間を長くとも、全く無意味なことであることは、受験生自身が一番良く理解している。
- 厚労省は今後、外国人受け入れに対する本質的な対策を取らない限り、受け入れ側の多大な経済的負担と、労力が全く無駄になってしまう。やはり、外国人の日本語力を高める本質的な改善策と、具体的な方針を早急にとるべきだと痛感している。(岡山県・U施設)

事業団の教育・研修には疑問！！

- 事業団の教材や講習会などでは、言葉の暗記に終始したものと、受験テクニックを中心に教育指導をしている。
- その中では、日本語の言い回し方「適切でないものを一つ選びなさい・適切なものを一つ選びなさい・違うものを一つ選びなさい」などだけを主眼に教育指導をしている。
- また、専門用語を暗記させることに多くの時間を与えて、ただ憶えるだけの方法をとっている。試験問題全体を理解する力は全く養われず、ただただ暗記に頼った受験テクニックの教育が一年間を通して行われていることに非常に疑問を持っている。
- マークシート方式で記号を簡単に導き出せるために、理解を伴っていない答え方になってしまう傾向が強い。
- その結果、日本語力が無いために、例え合格できても就業能力が無いため、再度「合格後に再教育が必要」という事態も生じてくるのではないかと心配している。
- 事業団の教育方針を、試験問題全体の理解ができる能力を養う方針に変えるべきだ。(和歌山県・G施設)

国家試験に向けての仕上がりは今一步・・・。 今後の受け入れも難しい・・・！！

- 今までの苦い経験から、今後の受け入れはしばらく考えないとも思っているが、1月の試験結果を見てから再度、検討する。受け入れが難しい理由は、「日本語教師による教育効果がない」「受験者の自学学習が身につかない」「職員の負担が大きい」この3点だ。
- 入職当初は以外に日本語力があると感じていたが、受験生の日本語力は、2年間が過ぎても伸びることなく、自学能力すら身につかなかった。そして、担当する教師は受験生の日本語力に対して、具体的な報告がほとんどなく、我々も見過ごしてきたので、受験生の受験能力をはっきりと把握することができずに、今日に至った。
- 具体的な教育効果の報告を求めなかったことは、施設側の責任と言えるが、あまりにも教師任せにしてきたことが、今になっては強く悔やまれる。(栃木県・H施設)

2014年、15年度「国家試験受験者」対象 <10分間テスト(無料)> 実施中

◎ 受験者の「受験能力」はどの程度あるのか？ ◎ 日頃の指導がどれだけ身につけているのか？

疑問をもったことはありませんか。確実に「合格」を目指すのなら、受験者の「会話力」だけで判断せずに、読解力を養って下さい。そのためには、プロの診断を受けることが最も大切なことです。

★★★「8つの言語技能」に分けて細かく分析し、考察を返却後、「教育相談」も実施しています。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年 3 月に発表された外国人介護福祉士国家試験合格者発表で明確に立証されました。 その内容では、受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名（52.7%）が、この受験能力到達度試験を受けた受験者でした。

※ 本試験は、国家試験に対する受験テクニックや言葉の暗記を重視したものではなく、あくまでも専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格 ↑ 職業言語能力を養う
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	生活言語能力を養う
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	
B段階	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	基礎言語能力を養う
A段階	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。		

【国家試験受験能力到達度試験】ご参加のおすすめ

【国家試験受験能力到達度試験】は、外国人国家試験受験者を対象とした【言語能力】を段階的に判定できる試験です。第一段階では＜基礎言語能力＞を観る初回レベル～Dレベルまでで、第二段階では＜国家試験受験能力＞を観るEレベルとFレベルです。そして、第三段階では＜国家試験合格能力＞を観る国試1レベル～3レベルの三部構成で実施しています。

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率を高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。
- 4、最も大切な言語能力は、日本語の基礎言語能力（初回～Dレベル）です。この段階の到達度が目標数値（月報16号P4参照）を越えれば、国家試験受験能力はほぼ達成できるように作られています。

【国家試験受験能力到達度】チェックと【教材】申し込み書 <送付先：FAX 03-6677-0632>

施設名：	ご担当者名：		
所在地：〒			
電話：	FAX：	メールアドレス：	
<受験人数> 名			
<受験者の国籍> インドネシア（ 名） フィリピン（ 名）			
※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。該当するレベルを○で囲んで下さい。			
<単発受験>			
初回・レベルA・B・C・D・E・F・国試1・2・3	@20,000円×	名	合計金額 円
<継続受験>			
初回から全10回（教材費込み）	190,030円×	名	合計金額 円
（再試験が発生した場合は、別途料金）			

★ 教材のおすすめ（詳細は月報16号P6参照）下記の教材は、受験者が自分で日本語の【規則性と用法・運用能力】を養うことができる自学教材です。特に、国家試験問題に対して必要な「読解力」が養えます。

※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。

100万人の日本語No.1（ ）冊	ひらがなかーど（ ）冊	漢字の一と1（ ）冊
100万人の日本語No.2（ ）冊	ひらがなの一と（ ）冊	漢字ノート2（ ）冊
100万人の日本語No.3（ ）冊	カタカナノート（ ）冊	

お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込み先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。

ことばの研究社 〒164-0002 中野区上高田3-2-13 石田ビル303
 電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：kotoba__ken@yahoo.co.jp

《 学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【教材の特徴】 ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる

【基礎言語能力レベルⅠ】 ③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性と用法」が学べ、自在に会話力が身につくような内容になっています。

※ 習得漢字数 310字～620字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【漢字のーと(1)】

□
『100万人の日本語No.1』に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」を習得しながら、効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。
※ 漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適です。
また、中国人学習者にも同様です。



【ひらがなのーと】

□
ひらがな文字の習得に最適な教材です。字形や書き順練習だけでなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方に絶対必要な発話方法が学べます。
身近な事例を使って学習でき、社会生活に必要な語彙も同時に学べ使える教材です。



【ひらがなカード】

□
表裏にはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色鮮やかに描かれています。
イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自学できるつくりになっています。
基礎教育の日本語学習に最適な内容になっています。

【基礎言語能力レベルⅡ】



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

□
会社や学校、家庭内など場面における会話文を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。
さらに、本テキストを終了すると、「自分の思いや考え」を意志表現できる能力が身につくように作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が自学できます。

※ 習得漢字数 420字～840字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【漢字ノート(2)】

□
『100万人の日本語No.2』に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文書に対する読解力も、同時に養えるように作られています。
漢字の「へん・つくり」の付録もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解が、できる内容となっています。
※ 漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解させる特徴があります。

【レベルⅠとレベルⅡの違い】

レベルⅠは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。
レベルⅡは、会話文を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。



【カタカナノート】

□
カタカナ語を使った場面を表すイラストが各ページにあります。
このノートは、説明文と会話文が繰り返し使われて作られています。
場面を紹介する文は、外来語の理解と、その言い出し練習をしながら、練習問題によって、読解力と文型の応用力を養えるようになっています。

【生活言語能力レベルⅢ】



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

□
テキストNO1とNO2とは違い、NO3では職場での日本語力が発揮できるように、限られた登場人物の日常的な生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)」力が養えるように作られています。
そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

※ 習得漢字数 850字～1,200字
※ 習得語彙数 1,110語～3,330語

【レベルⅢの特徴】

日本独特な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。語の種類と文の種類を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。
また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベルⅠ	「ひらがなカード」	¥1,050
	「100万人の日本語No.1」	¥2,550
	「ひらがなのーと」	¥1,800
	「漢字のーと 1」	¥1,360
レベルⅡ	「100万人の日本語No.2」	¥2,550
	「カタカナノート」	¥1,360
	「漢字のーと 2」	¥1,360
レベルⅢ	「100万人の日本語No.3」	¥3,000
※ 送料は別途		